

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 10月 25日

【評価実施概要】

事業所番号	0175700350		
法人名	株式会社一条		
事業所名	グループホーム ほろむい二号館		
所在地	岩見沢市幌向北2条1丁目611-109 (電話) 0126-26-5673		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成20年10月23日	評価確定日	平成20年11月28日

【情報提供票より】 (20年10月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年 2月 1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 11人 非常勤 2人 常勤換算12.0人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000円	その他の経費(月額)	水光熱費18,000円 暖房費(11~3月)8,000円
敷金	有()円・(無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有()円 (無)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当た 1,333 円		

(4) 利用者の概要(10月20日現在)

利用者人数	18名	男性 4名	女性 14名
要介護1	5名	要介護2	5名
要介護3	5名	要介護4	3名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 84.3歳	最低 79歳	最高 98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	牧病院、ほろむい内科小児科クリニック、田中クリニック、岩見沢脳神経外科
---------	-------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、運営法人が平成16年にデイサービスを併設したグループホーム1号館に隣接して、翌年に開設した施設である。岩見沢市郊外の住宅街に位置し、落ち着いた外装で、建物内部中央に植物を配置した中庭があり、利用者に和やかな雰囲気を与えている。職員は利用者のケアサービスに熱意を持って取り組み、家族から明るく家庭的で面倒をよく見てくれると感謝されている。日常においても隣接のグループホームやデイサービスと合同のイベント開催など、楽しみごとがあり、利用者は静かな環境の中で穏やかに暮らしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>地域に密着し、人や自然とのふれあいを大事にする理念が新たに盛り込まれ、パンフレットにも記載されている。また、個人情報保護の面から面会簿はカード式に改めるなど、改善へ積極的に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員は自己評価表の意義を理解しており、評価作成には全員が参加して内容をまとめている。評価結果は会議などで検討し、課題解決に取り組むよう努めている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議はホーム関係者、町内会代表、民生委員、行政担当職員、包括支援センターなど多彩なメンバーで2ヵ月毎定期的に開催している。会議ではホーム概要報告のほか「地域の福祉」などのテーマを決めて話し合わせ、ホーム運営に活かすようにしている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>職員は家族からの意見や要望を気軽に話していただけるよう配慮しており、要望などがある時はミーティングで検討し、利用者のケアサービスやホーム運営に反映させるよう努めている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホーム開設時から町内会に加入し、運営推進会議にも町内会代表に参加していただいている。地域では「ほろむいフェスタ」など独自の行事があり、これを見学したり、地域のお祭りに子供御輿がホーム前で実演してくれるなど、地域との交流が進められている。</p>
	<p>重点項目④</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念として、新たに「地域に密着しながら人と自然とのふれ合い、語り合う」を主旨とする文言をパンフレットに印刷しており、ホーム独自の理念を持っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日常的に理念を基本としたケアサービスに努めており、ホーム長会議やユニット会議においても理念を意識したケアのあり方について話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム開設当初からは町内会に加入し、地域の「ほろむいフェスタ」など各種行事へ利用者と職員が参加している。また、ほろむい子供獅子舞をホーム前で実演してくれるなど、地域との交流が進められている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の意義と必要性を職員全員が理解し、評価作成に参加している。自己評価や外部評価の内容について、会議で改善策を検討しながらホーム運営に活かすよう取り組んでいる。		

岩見沢市 グループホームほろむい二号館

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、ホーム関係者以外に行政担当職員、包括支援センター、町内会関係者をメンバーとして、2ヵ月毎定期的に開催している。会議ではテーマを決めて話し合い、参加者からの意見や要望をホーム運営に反映させるようにしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当者が推進会議に参加している。また、会議録やホーム便りを届けながらホーム運営の相談や介護関連の情報交換を行っており、行政との連携が図られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の方々の来訪が頻繁にあり、その際に利用者の健康状態など生活状況を伝えている。さらに、隔月発行のホーム便りに担当者による詳細な利用者一人ひとりについてのお便りも付けており、家族から好評を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方々からのホーム運営や利用者に関する意見や要望は、気軽に話していただけるよう職員は心がけている。要望などはホーム長会議やユニット会議で検討し、改善するよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はほとんど無いが、ある場合でも最小範囲で行なわれている。利用者は隣接のホームやデイサービスとの交流があるため、馴染みの関係が築かれ、異動による影響は無い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を育てる体制は、ホーム内ではOJT（実務訓練）が主であるが、外部研修の情報が職員へ伝えられ、医療機関や協議会主催のセミナーに交代で参加している。有料のセミナーについては運営法人が負担している。	○	外部研修への参加回数が、やや少ないため、できるだけ職員全員の参加機会を増えることを期待したい。また、会議の際に一部時間を割いてテーマを決めながら、勉強会を行なうなど、内部研修の取り組みも期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内には管理者会議などグループホーム関係者が集まる組織が無い。施設長がほかのホームを訪問して、情報収集を行なっているが、ほかの業者との交流はほとんど無い。	○	施設長を中心にほかの業者との勉強会や交流の話がでており、その実現を期待したい。また、ほかのホームとの交流や見学などは一部職員にとどまらず、職員全員が参加できるよう期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の入居前に、家族の方々と一緒にホームを見学していただき、できるだけ利用者がホームに馴染むよう努めている。入居後も利用者に不安がある際には、家族に泊まっていたきながら、ホームの生活に馴染んでいただくよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員はホーム内の作業などを利用者と一緒にしながら、介護する立場としてではなく、利用者との支え合う関係を築いている。地域の行事がある際には、利用者職員がともに参加し、協力し合っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の方々からの情報収集を行ないながら、利用者の行動や表情から思いや意向を把握するようにしている。把握が困難な場合は職員同士や会議で検討して確認している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は家族からの情報収集や医療機関とも相談しながら、アセスメントを行ない、カンファレンスによって気づきや課題について意見交換し、作成している。職員は担当の利用者を決めているが、介護計画は職員全員の共有となっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は職員全員による定期ミーティングで検討し、通常は3ヵ月毎、安定した利用者は6ヵ月毎に定期見直しを実施している。利用者に状態変化が生じた際には、その都度医療機関とも相談しながら、介護計画を変更するなど随時見直しを行なっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームの車両を利用して、病院や買物の送迎、花見、日帰り温泉、外食などの外出支援、隣接のホームやデイサービスとの合同行事など、様々な支援を実施している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医療機関は24時間対応で、月2回の往診があるが、利用者や家族の希望でほかの医療機関の受診も自由である。また、同法人が運営の隣接ホームに在職している看護師の支援を受けることも可能である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホーム入居時に、家族や利用者へ重度化や終末期における対応について説明し、了解を得ているが、まだ指針は作成していない。家族とは、今後の重度化における対応方針について話し合いを行なっている。	○	利用者の重度化や終末期の際に、その対応策を家族に再確認していただくため、また、職員の明確な共有とするためにも指針の作成の取り組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の介護計画など各種記録は慎重に管理され、面会簿もカード式に改善されている。職員の利用者への言葉かけなども親しみがあり、誇りやプライバシーを損ねることの無いように配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は一人ひとりの生活リズムや希望を大切にして、ホーム内での役割分担や楽しみごとを支援しており、利用者は家庭的雰囲気の中でゆったりと暮らしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は和やかな食事になるようともに食卓を囲み利用者との会話に配慮しながら、食事支援をしている。高齢であっても可能な限り自力での食事摂取を支援し、行事食やおやつ以外は、職員と一緒に食事が難しい状況である。職員は同じ食事を一緒に取ることが望ましいが、食事介護に専念する必要もあり、やむを得ない状況である。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週に2回程度のペースで午後の時間帯に実施しているが、利用者の希望で入浴回数を増やすことも可能である。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホーム内では食事準備、畑や花壇の手入れなどの役割や縫い物などの趣味やゲームを楽しんでいる。さらに、隣接のホームやデイサービスと合同でボランティアの芸能鑑賞したり、地域行事へ参加するなど、多くの楽しみごとが実施されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者は日常的にホーム周辺を散歩したり、ホームの車で買物へ出かけている。また、年間行事計画に基づいて花見、日帰り温泉、外食に出かけたり、地域行事の見学などもあって気晴らしに役立っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム正面玄関は夜間帯のみ施錠しており、ユニットの入り口は昼夜とも施錠はしていない。両ユニット入り口には音色の異なる鈴がそれぞれ設置してあるため、利用者の出入りは把握できるようになっている。		

岩見沢市 グループホームほろむい二号館

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は隣接のデイサービス及びホームと合同で実施し、消防署の指導の下、避難誘導や消火器の使い方などを学んでいるが、夜間想定訓練はまだ実施していない。	○	災害発生時には、周辺住民の方々の協力が不可欠なので、地域へ協力を働きかけるとともに、夜間想定訓練の実施を期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事量や水分摂取量は記録され、食事カロリーや水分摂取が最適になるよう配慮している。食事メニューは運営法人の管理栄養士が作成しており、職員は調理方法や盛り付けを工夫し、利用者の食が進むよう努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの中央には植栽のある中庭があり、利用者や訪問者に和やかな感じを与えている。共有空間はゆったりと明るく、床暖やエアコンも設置してある。壁面には利用者手づくり作品や写真、季節の飾りがあり、家庭的で親しみのある雰囲気の中で居心地良く暮らしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は清潔で安全な床暖があり、広い窓で明るく、クローゼットも備えられている。利用者は好みの調度品や仏壇などを自由に持ち込み、ゆったりとした生活を過ごしている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。